報告

第11回ファジィシステムシンポジウムの報告

村田 忠*

1. はじめに

第11回目のファジィシステムシンポジウムは海を渡って南の美しい島沖縄の地にある琉球大学で平成7年7月12日～14日の3日間開催された。シンポジウムには全国(一部中国)から参加者350名、発表論文数248編が集まった。開催場所が中央から遠く離れた地であるため、当初心配していたが、論文数としてはこれまでの内で最多であった。シンポジウムの現地担当者としてここにその状況をご報告します。

2. シンポジウムの状況

今回のシンポジウムは、新しい企画セッションとして「英語セッション」、「学生セッション」および「ビールセッション」を設けた。会場は琉球大学大学院棟を中心とする6会場を準備したが、3日間で全発表件数を消化するために1件当たりの発表時間は質疑討論を含め15分となった。このため討論時間が少なくとまどいもあり、発表時間については今後の検討が必要であると思われる。

写真1 シンポジウムの入り口

第1日目は、特別講演「哲学とファジィネス」と題し琉球大学法文学部 米盛教授の講話があった。その講演内容は格調が高く、質問も多く出され、参加者は深い感銘を受けた。この特別講演の内容は本学会誌で紹介される予定である。また1日目の「ビールセッション」には会場に立見席ができ会場に入りきれない程であった。実行委員会が準備していた無料のビール缶と泡盛缶(沖縄の酒)250本は瞬く内に泡と消えてしまった。しかし、廣田教授(東工大)の名司会のもと、各パネリストの文字どおり口角泡を飛ばす熱弁による学会と学会誌等への意見(悪口?)は拝聴に値するものが多く、飛び入りの発言者もあって予想以上の盛り上がりを見せた。そして本企画が成功裏に終わったため次年度も継続してはとの声が高い。このように奇抜な企画が組めるのも若々しいファジィ学会の良いところかも知れない。

第2日目は、招待講演「泡盛の話」と題して沖縄県工業試験場の照屋先生の講話があった。ここでは沖縄の銘酒泡盛の歴史と製法、さらに泡盛の上手な飲み方の解説があった。この講演はその日

写真2 ビールセッションのひとコマ

* Tadashi MURATA
琉球大学 工学部

の夕方の懇親会で泡盛を出すための準備と考えた実行委員会の策である。

とにかく、企画セッションとして13企画を組み、各オーガナイザーの先生に依頼した甲斐があって論文が多く集まったものと思われる。それらの企画セッションとは；「ファジィ制御」(3件)、「エキスパートシステム」(7件)、「ファジィOR」(8件)、「ノンエンジニアリング」(8件)、「土木応用」(4件)、「カオス」(4件)、「医療・健康・感性」(4件)、「教育工学」(10件)、「エボリューションリコンピューティングI, II」(11件)、「学生(GA, 推論, 認識)」(10件)、「英語」(8件)、「ビール」であった。

発表件数が多いため、3日間で6会場にびっしりとつまった運営を行ったが、中には沖縄の美しい海岸を見物したり、離島の海に潜って魚と戯れた先生もいたようで、会期後半になると所々参加者の少ない会場も見受けられた。しかし概して参加者は熱心に討論を行っていた。

3. 懇親会

第2日目の夕方にはチャータしたバスで那覇市内のパシフィックホテルの懇親会場に200名の参加者を運んだ。村田実行委員長の歓迎挨拶に始まり、向殿会長と田中新会長のスピーチ、そして琉球大学宮城工学部長の挨拶、名誉会員の寺野先生の乾杯の音頭で華やかな懇親会となった。途中、琉球舞踊が「四つ竹」を含む4節があり、沖縄の三味線のめずらしい音曲と踊りに参加者全員が沖縄の文化を堪能したようであった。また味覚の方では、大きい豚の丸焼きと1mを越すハブがガラス瓶に入ったハブ酒に人気が集まり、それらは瞬く内に人々の胃袋に消えていった。そして最後は沖縄のカチャーシという阿波踊りに似た踊りがあり、向殿会長はじめ若い女性研究者達も宴会場の壇上にあがり我を忘れて踊ったものだった。司会者が閉会を告げても参加者は会場の余韻に酔ってしばらくは会場に留まっていたのが印象的であった。参加者は可成り強いインパクトを受けたように見受けられた。

写真3 懇親会での琉球舞踊

これまでの多くのシンポジウムの中でも今回のものは、発表件数、会場設営、懇親会の面で一つのエポックとなったような気がするのには筆者一人ではないようだ。

これもシンポジウムの実行委員12名が約1ケ年かけて緻密な企画と準備活動を行ってきた成果の現れであると思われる。

4. おわりに

とにかく開催が1週間遅れていれば、台風3号に襲われ、ヒドイ目にあったであろうと思うとき、この度は天までが我々に味方してくれたことに感謝している次第です。本シンポジウムの盛り上がりは写真からくみ取って頂きたい。

今回のシンポジウム開催にあたって、沖縄県の企業、とくに沖縄電力(株)より多額の寄付金を頂き、オリオンビール(株)よりはビール缶の現物支援を頂いた。また琉球大学後援財団からも補助を頂いた。それらの多くのご支援に支えられて、このように盛大なシンポジウムができたことに実行委員長としてこの紙面を借りて深く感謝致します。

なお、本シンポジウムの開催、運営に対しファジィ学会から感謝状を頂いたことを付記します。

[問い合わせ先]

〒903-01 沖縄県中頭郡西原町千原1
琉球大学 工学部
村田 忠
☎: 098-895-2221(内)2719
FAX: 098-895-6406